

委員会視察報告

産業建設 常任委員会

視察日 2月6日～7日

視察先 高知県大豊町

高知市(旧土佐山村)

目的 団地化と低コスト林業の推進の「株とされいほく」と完全制御型植物工場「夢ファーム土佐山」を視察

大豊町

大豊町は高知県の東北端に位置し、総面積314.94km²を有し、標高200mから1400mの隆起した急峻な山岳地帯で、平坦地は殆どなく、耕地は総面積の1.2%に過ぎず、棚田・傾斜畑で形成されている。人口5,478人、高齢化率51%の町である。

林業の再生を目指して豊かな森林創造・機械化システムの推

進・地域社会への貢献などを目標に間伐を推進している「株式会社とされいほく」の企業理念や間伐の基本的な考え方等について現地視察した。

林業収益の山元還元理念は、生産性の向上による低コスト化や間伐材の販売努力による森林所有者への間伐収益の還元とその還元額の増大に努力されていた。還元額はha当たり約40万円であった。車両系の間伐システムは地すべりや山の荒廃になりやすいため、急斜面の山はH型架線(四胴集材機)で作業することを力説されていた。

土佐山村(平成17年に高知市と合併)

夢ファーム土佐山植物工場は、新規就農者で運営する第三セクター方式の密閉・完全人工照明型の植物工場で中山間地域での若者の就労創出と21世紀を展望した農業システムの可能に挑戦した取り組みであった。自動化・

省力化された密閉施設の中で、三角パネルと噴霧水耕を使い人工照明で効率的に野菜を生産するハイテク農業で栽培されていた。計画的な周年出荷により安定した収入の確保と労働時間の短縮が図られ、消費者には無農薬・無菌の安全な野菜が、天候に左右されず安定して供給できる。



大豊町の間伐事業実施地